

【ユニット】 行動科学と医療倫理

【ユニットディレクター】

UD：菅 理江（教養教育）

UD 補佐：米岡 裕美（教養教育） 種田 佳紀（教養教育）

【一般的な目標】

医学研究における研究倫理の基本を学ぶ。

医療安全におけるリスク管理，予防策について学ぶ。

行動変容についての理論と技法を理解する。

【具体的な目標】

1. 医師の法的義務を列挙し，例示できる。★PR-01-01-02
2. 医学研究における研究倫理の規範を概説できる。★RE-05-01-01 ★RE-05-02-01
3. 利益相反に関するルールを概説できる。★PR-01-01-01 ★RE-05-02-02
4. 医療上の事故等を防止するためには，個人の注意（ヒューマンエラーの防止）はもとより，組織的なリスク管理（制度・組織エラーの防止）が重要であることを説明できる。★CS-05-06-01
5. 基本的予防策（ダブルチェック，チェックリスト法，薬品名称の改善，フェイルセーフ・フールプルーフの考え方等）を概説できる。★CS-05-05-01
6. 緩和ケアにおける患者・家族の心理を説明できる。★PR-04-01-01
7. 患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。★CM-01-02-01
8. 心理教育を説明できる。★GE-01-05-01
9. 生活習慣病における患者支援（自律性支援）や保健指導を概説できる。★GE-01-05-02

【学習方法】

本ユニットでは，1-3 年次に学んできたことを元に，臨床および医学研究における行動科学・医療倫理の問題を学ぶ。用語の定義を覚えるだけでなく，考え方・その問題が顕在化した背景などを理解し，自分の経験にあてはめて具体的な問題として捉えられるようになることを目標としている。

1. 多くの授業で，授業前に行う授業前課題もしくは，事前に読んでおくべき資料が指示される。これらの準備を前提に授業が行われるため，必ず実施し，提出物がある場合にはかならず期限内に提出すること。
2. 既出の概念も具体的な場面で捉えなおすと，理解が十分でなかったことに気づくことがある。曖昧な部分は教科書等を確認し，不明な点は教員に質問すること。
3. 授業後に授業内容の理解を深めるため，授業後課題を課す授業もある。授業資料，授業中に自分が書き留めたノートを中心に課題に取り組むこと。必ず実施し，提出物はかならず期限内に提出すること。

提出課題等へのフィードバックについて：上記の通り，本ユニットでは授業前・授業内・授業後に課題が課される授業がある。授業前課題については主に授業内で解説・講評が行われる。授業内・授業後の課題については，授業内で講評を行うか授業後に WebClass に掲載する。定期試験後の講評・解説は，試験後の補習で行われるか，WebClass に掲載される。

【評価方法】

成績：定期試験を実施する。定期試験の形式は基本的に論述式である。ユニットの成績は定期試験（75%）および提出課題（25%）で評価する。再試験は実施する。なお，1-3 年生で学習した心理学上の

概念が援用されて試験に出題されることがある。

出席：出席票あるいは授業内課題のワークシートの提出をもって出席とする。なお、出席数の不足が病気その他のやむを得ない理由によると卒前医学教育委員会が認めた場合を除き、出席数が規定時限数の75%に達しない場合は、ユニットを不合格とする。

【教科書】

- ◆ 「心理学概論第2版」岡市廣成，鈴木直人監修，青山謙二郎他編，ナカニシヤ出版，2014
- ◆ 「入門・医療倫理Ⅰ 改訂版」赤林朗編，勁草書房，2017

【参考書】

- ◆ 「医学研究・臨床試験の倫理－わが国の事例に学ぶ」井上悠輔・一家綱邦編著，日本評論社，2018
- ◆ 「ユダヤ人を命がけで救った人々：ホロコーストの恐怖に負けなかった勇気」キャロル・リトナー，サンドラ・マイヤーズ編，河出書房新社，2019
- ◆ 「遺族外来：大切な人を失っても」大西秀樹，河出書房新社，2017
- ◆ WHO 患者安全カリキュラムガイド多職種版（<http://meded.tokyo-med.ac.jp/who> 患者安全カリキュラムガイド多職種版について/）

【授業予定表】

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
行動01	04月16日	(火)	3	医学研究における倫理の基礎	種田（教養教育）
行動02	04月30日	(火)	5	ゲノム編集と研究倫理1	種田（教養教育） 三谷（ゲノム応用） 林（教養教育）
行動03	04月30日	(火)	6	ゲノム編集と研究倫理2	種田（教養教育） 三谷（ゲノム応用） 林（教養教育）
行動04	05月29日	(水)	2	行動変容の理論と技法 1	小林(総セ神経精神科)
行動05	05月29日	(水)	3	行動変容の理論と技法 2	小林(総セ神経精神科)
行動06	05月29日	(水)	4	医療における行動科学Ⅲ：生活習慣病における患者支援	小林(総セ神経精神科)
行動07	06月05日	(水)	5	がん医療における心のケア	大西(国セ精神腫瘍科)
行動08	05月30日	(木)	2	医療安全Ⅲ：基本的予防策（特に臨床場面での）とヒューマンエラー防止と組織的リスク管理	岡田(医療安全対策室)
行動09	06月06日	(木)	4	研究倫理演習 1	種田（教養教育）
行動10	06月06日	(木)	5	研究倫理演習 2	種田（教養教育）
行動11	06月20日	(木)	3	行動科学と医療倫理まとめ	種田（教養教育） 菅（教養教育）

【ユニット】

行動科学と医療倫理

【ユニットディレクター】

菅 理江（教養教育）

【コンピテンス】

1. 社会人および医師としての基本姿勢
2. 基盤となる医学知識と問題対応能力

【マイルストーン】

- 1-(1). 医療倫理について自身の考え方を確立している。
- 2-(3). 研究倫理の基本、医療安全におけるリスク管理と予防策を概説できる。
行動変容についての理論と技法を概説できる。

【評価方法】

- 1-(1). 筆記試験・レポートおよび演習におけるワークシート
- 2-(3). 筆記試験・レポートおよび演習におけるワークシート

【補習および再評価の方法】

- 1-(1). 課題提出または口頭試問
- 2-(3). 課題提出または口頭試問